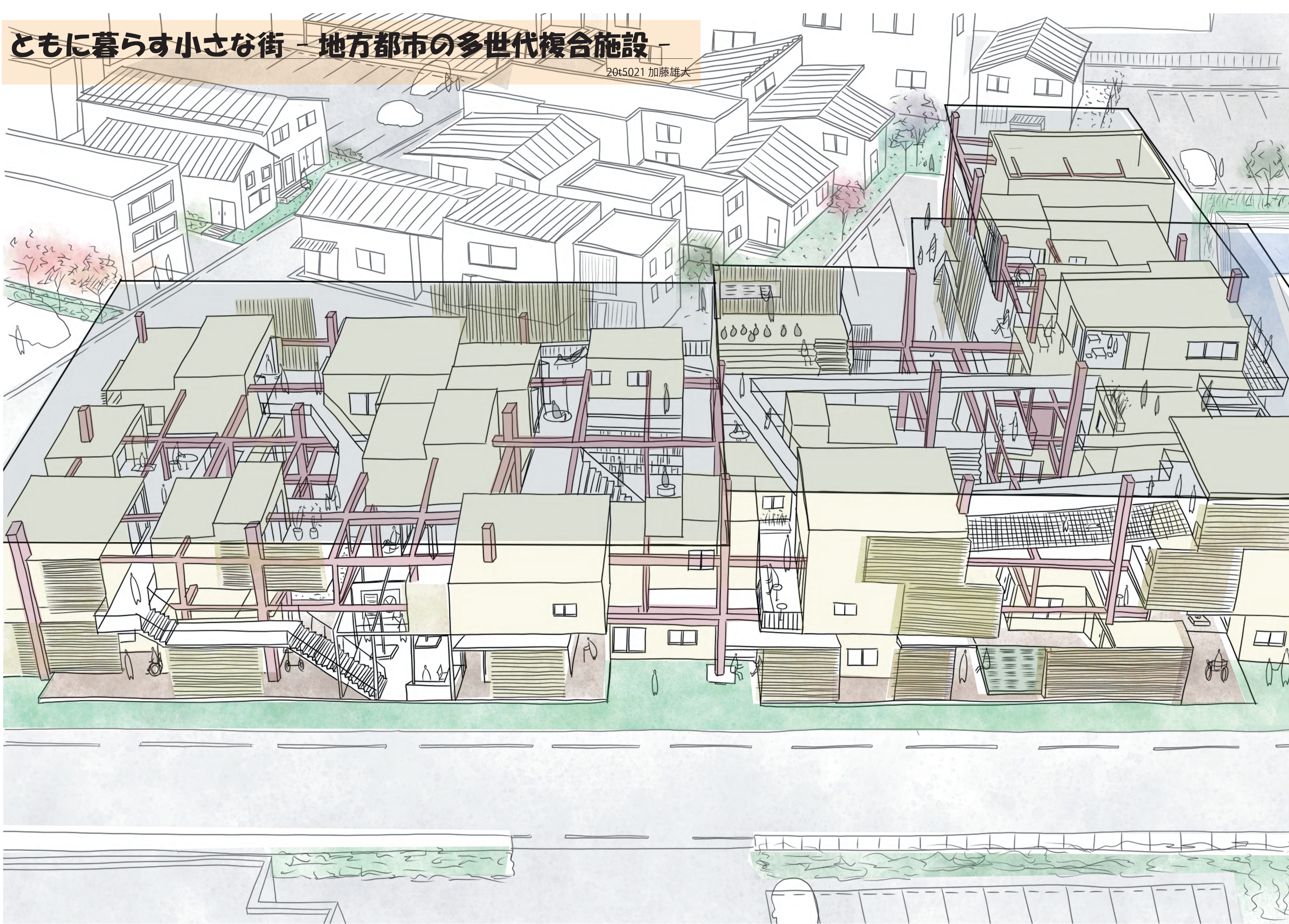


ともに暮らす小さな街 - 地方都市の多世代複合施設 -

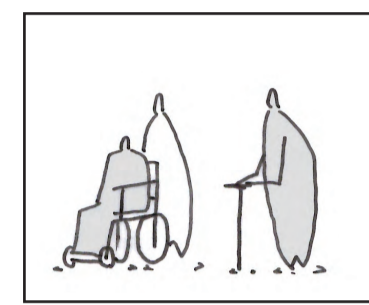
20t5021 加藤雄大



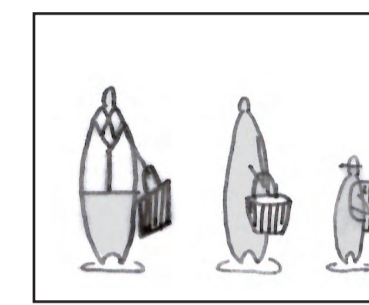
01 問題提起・コンセプト

核家族の戸建て住宅が増加し、現在単身者が増加してきている。それにより、異なる年代の人と実際に会って会話をすることが少なくなっているように感じる。

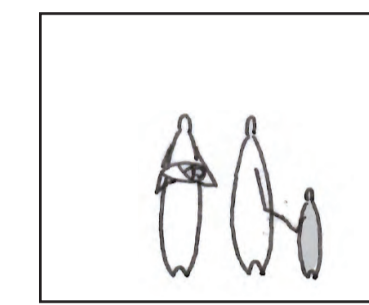
日常生活の中で異なる世代の人々が集まり、時々会話をしつつ互いに見守るような関係を持って暮らす小さな街のような建築が必要なのではないかと考える。



高齢者



核家族



幼児

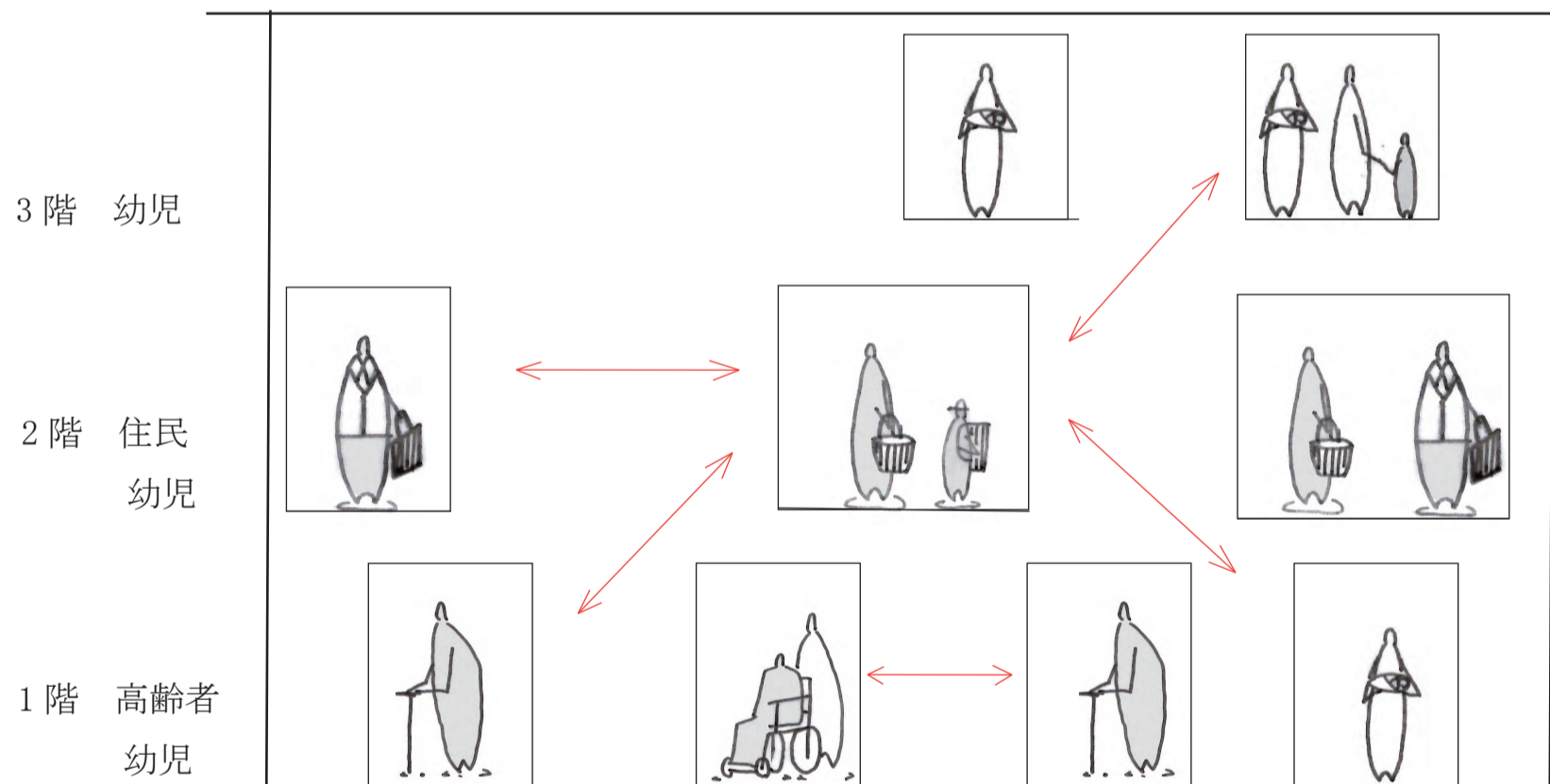
02 ポイント

本設計では高齢者施設や集合住宅、保育室が複合した施設を計画する。以下3つのポイントを示す。

①体が不自由になっても街の中で暮らせる高齢者施設に入り、高齢者と介護士のみではなく、近くに集合住宅の住民や幼児がいて、時々会話をすることができる。

②見守りながら暮らせる住民
集合住宅の住民は、高齢者施設が下に、保育室が上にあるため、子供や高齢化した親を自分のすぐそばで見守ることができる。

③走り回りつつ、景色が変化する幼児
1～3階に渡り保育室があり、場所によって高齢者や住民、地域の人々の活動が見えてくる。



03 対象敷地

対象敷地は、茨城県土浦市の駅から徒歩10分のところとした。周辺に亀城公園や土浦小学校、商店街がある。北側に植栽の多く残る亀城公園、東側に裁判所と亀城公園への道、南側には児童の登下校の道、西側は住宅街に囲われている。広域的には南側には駅などの商業地域、北側には住宅街が広がる敷地に位置している。



亀城公園の写真



土浦小学校の写真



04 構造計画

フレンドリートラス構造の採用

高齢者施設では、区切られた個室の連続では、周辺の様子を感じられず、興味が限定され、刺激の少ない日常生活になってしまう。しかし、大空間にすると落ち着かないスケールになると考えた。

そこで、フレンドリー構造を採用し、1階にひとつながりとなる大空間を作り出す。そこに共用部とポリカーポネートの可動壁による個室を分散して配置することにより、ひとつながりでありながら高齢者の気分や体調によって調節できる空間とした。

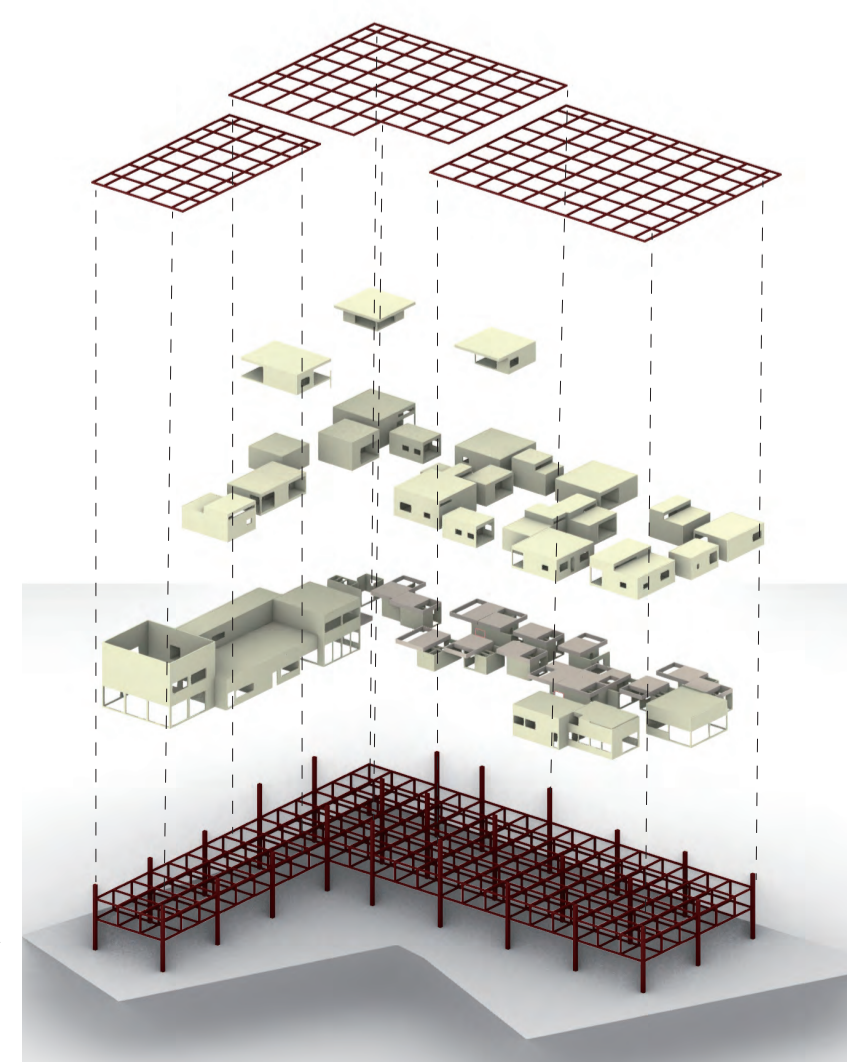
3階
保育園 (3～5歳)

2階
集合住宅
保育園

1階
高齢者施設
保育園 (0～2歳)

フレンドリー構造

アクセスメ

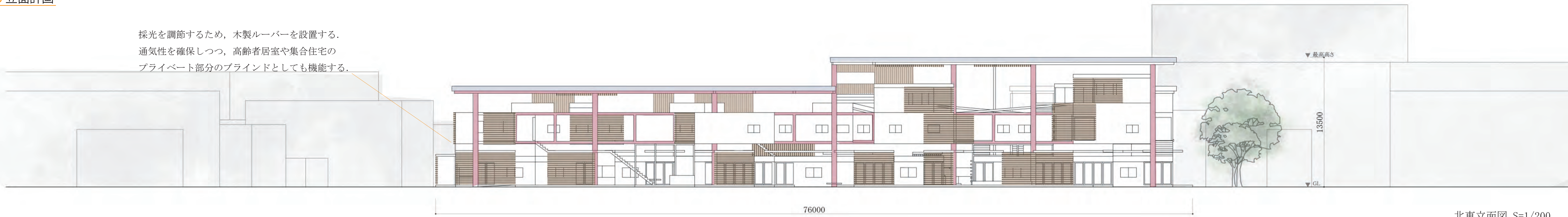


詳細情報

| | | | |
|------|--|---------|------|
| 所在地 | 茨城県土浦市中央一丁目 | | |
| 用途地域 | 第一種住居地域 | | |
| 階数 | 地上3階 | | |
| 敷地面積 | 4453 m ² | | |
| 建築面積 | 2627 m ² | | |
| 延床面積 | 4370 m ² | | |
| | (1階 2203 m ² 2階 1697 m ² 3階 470 m ²) | | |
| 建蔽率 | 59.0% (最大 60%) | | |
| 容積率 | 96.0% (最大 300%) | | |
| 構造 | 鉄骨造、一部木造 (1階) | | |
| 主要用途 | 高齢者福祉施設、集合住宅、保育所 | | |
| 収容人数 | 210人 | | |
| | 高齢者福祉施設 | 18人 + α | |
| | 集合住宅 | 48人 | |
| | 1人世帯 | 7部屋 | |
| | 2人世帯 | 14部屋 | |
| | 3～4人世帯 | 24部屋 | |
| | 保育所 | 0～5歳児 | 120人 |

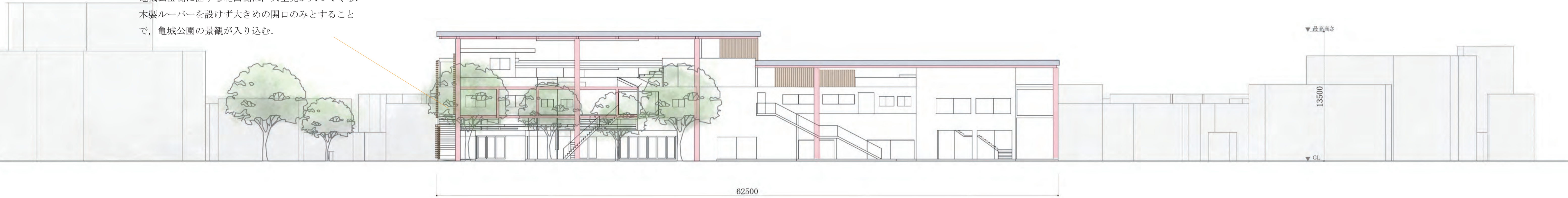
05 立面計画

採光を調節するため、木製ルーバーを設置する。
 通気性を確保しつつ、高齢者居室や集合住宅の
 プライベート部分のブラインドとしても機能する。



北東立面図 S=1/200

亀城公園側に面する北西側は、天空光が入ってくる。
 木製ルーバーを設けず大きめの開口のみとすること
 で、亀城公園の景観が入り込む。

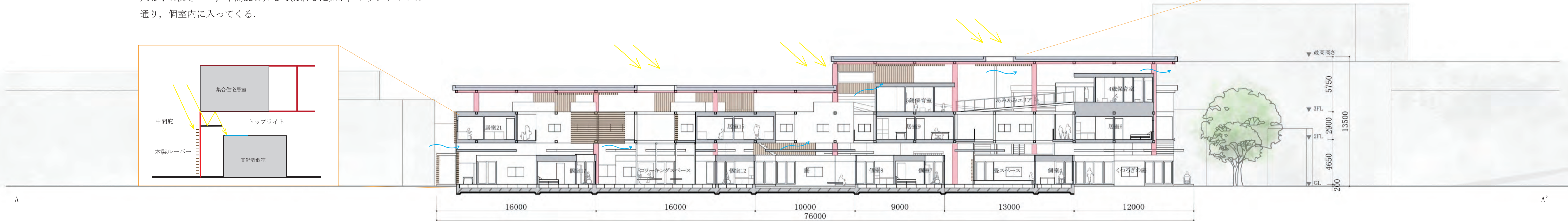


北西立面図 S=1/200

06 断面計画

1階と2階の間に中間庇を設ける事で、直射光が高齢者個室の中に入
 る事を防ぎつつ、中間庇を介して反射した光が、トップライトを
 通り、個室に入ってくる。

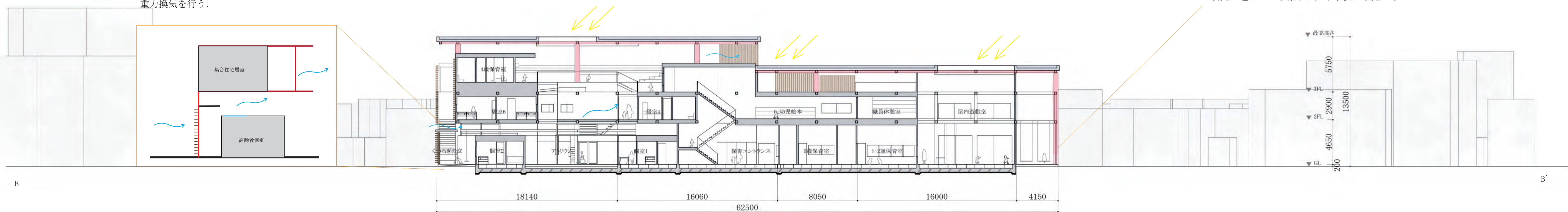
高齢者の共用空間に光が落ちるように、トップライトを
 設ける。



AA' 断面図 S=1/200

1階や2階の住戸を分棟にし、隙間を作ることにより、
 重力換気を行う。

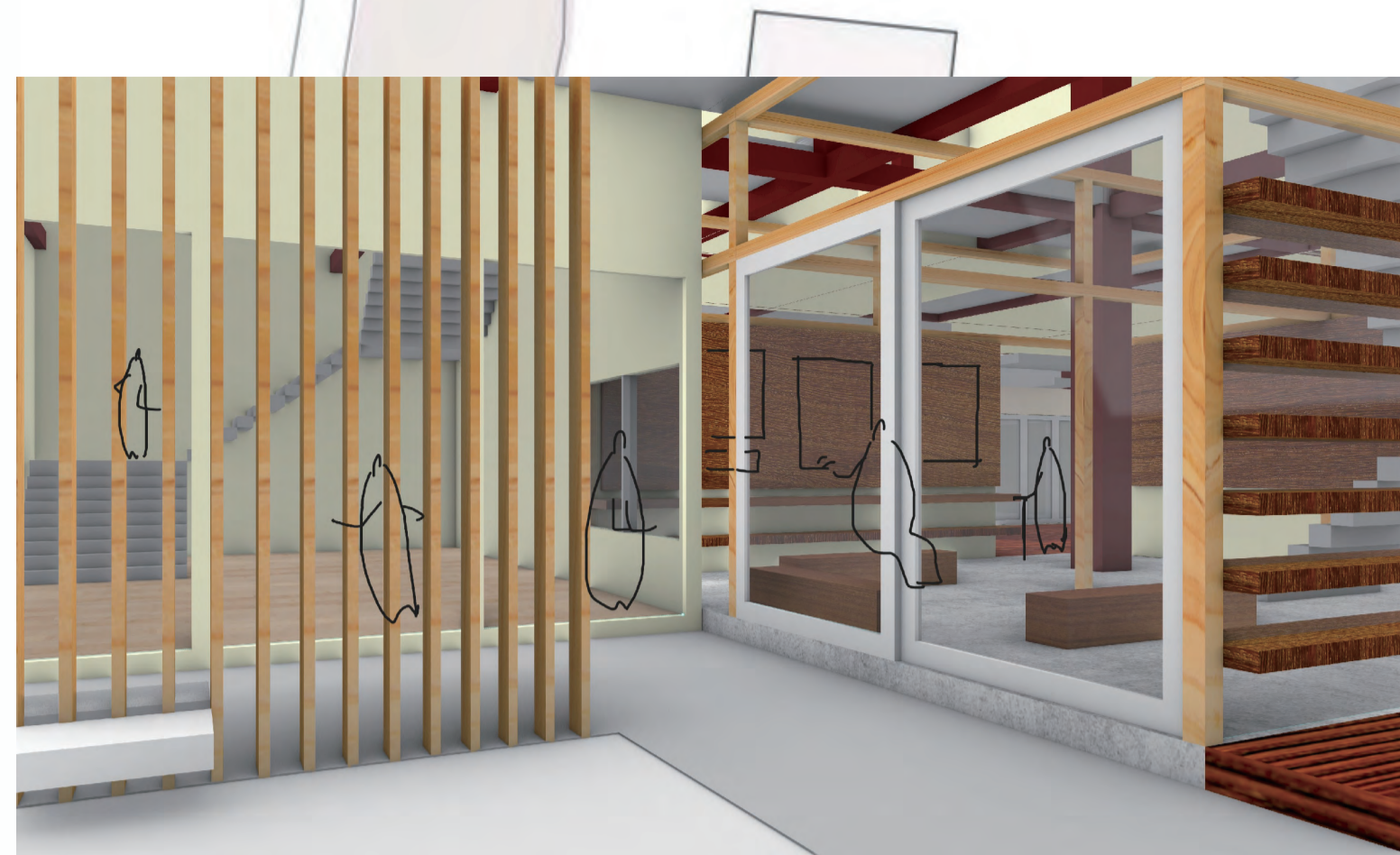
幼児が遊んでいる様子が、小学校から見える。



BB' 断面図 S=1/200

駐車場

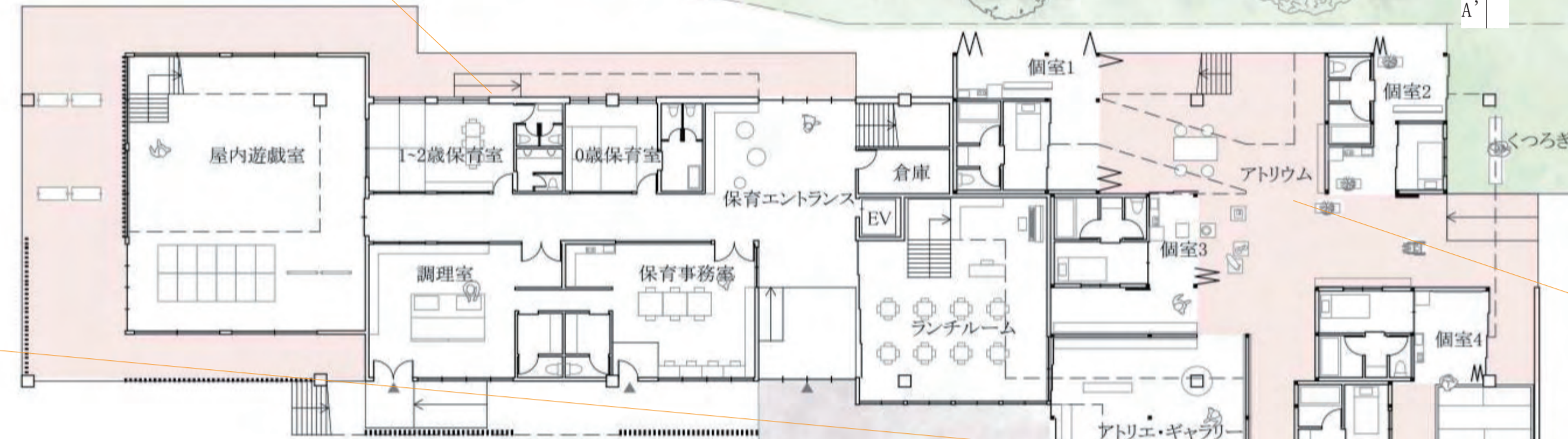
亀城公園



昼：ランチルーム・ギャラリー

昼頃に、アトリエ・ギャラリー近くにいると、幼児達がランチルームに集まってくる。匂いや音、視覚で高齢者は昼の時間を知ることができる。窓を介して、幼児と高齢者で会話をする場となる。

3～5歳児が遊んでいる様子を、0～2歳児が見えてくる。



昼～夕方：高齢者個室

高齢者個室には、ポリカーボネートの折り戸や可動壁を用いて、共用スペースに開けるようになっている。高齢者の体調が良い時は開くことで、共用スペースの一部のようになり、体調が悪い時でも、ドア越しに光が透過し、周りの活動が伝わる。

寝室や水回りは、比較的小さな開口を設け、静かな場を作る。

高齢者や集合住宅の人々の活動が、亀城公園へ行く地域住民から見えてくる。

亀城公園へ



朝：共用居間

高齢者が共用居間に集まり、朝日を浴びながら朝食を取る。そのまま、共用居間に残っていると、土浦小学校の通学路となっている前面道路を歩く児童の様子が見え、朝を知らせる。

幼児の送り迎えをする親同士の井戸端会議が始まる。アトリエ・ギャラリーにいる高齢者達とも子育て相談ができる。

既存樹木

小学校へ

保育園へ



朝、夕方：迎える庭・図書ルーム

朝方に迎える庭や、図書ルームにいますと、登園してくる幼児や、2階に住むサラリーマンの会社に立ち会うことができる。集合住宅の住民も共用スペースを利用し、挨拶や日常生活でのちょっとした会話をする事ができる。

保育室では、エントランスから屋内遊戯室、3階へと回遊性を持たせ、幼児が動き回れるようになる。

1階の共用空間や居室に光が入るように配慮しながら、通路を通す。

遊び疲れたら、亀城公園の景観を見ながら休憩ができる。

集合住宅の高低差を利用し、スロープでつなぐことにより、幼児が走り回ることができ、屋外遊技場の代わりとなる。

保育士が、植栽や芝生の広がる亀城公園を前にくつろぐことができる。

集合住宅の寝室や水回りは、比較的小さな開口を設け、静かな場を作っている。部分的にハイサイドライトを設け、光を上から取り入れていく。

高齢者の共用部の中に階段を設けることで、集合住宅の住民は移動の際にそこを通る。

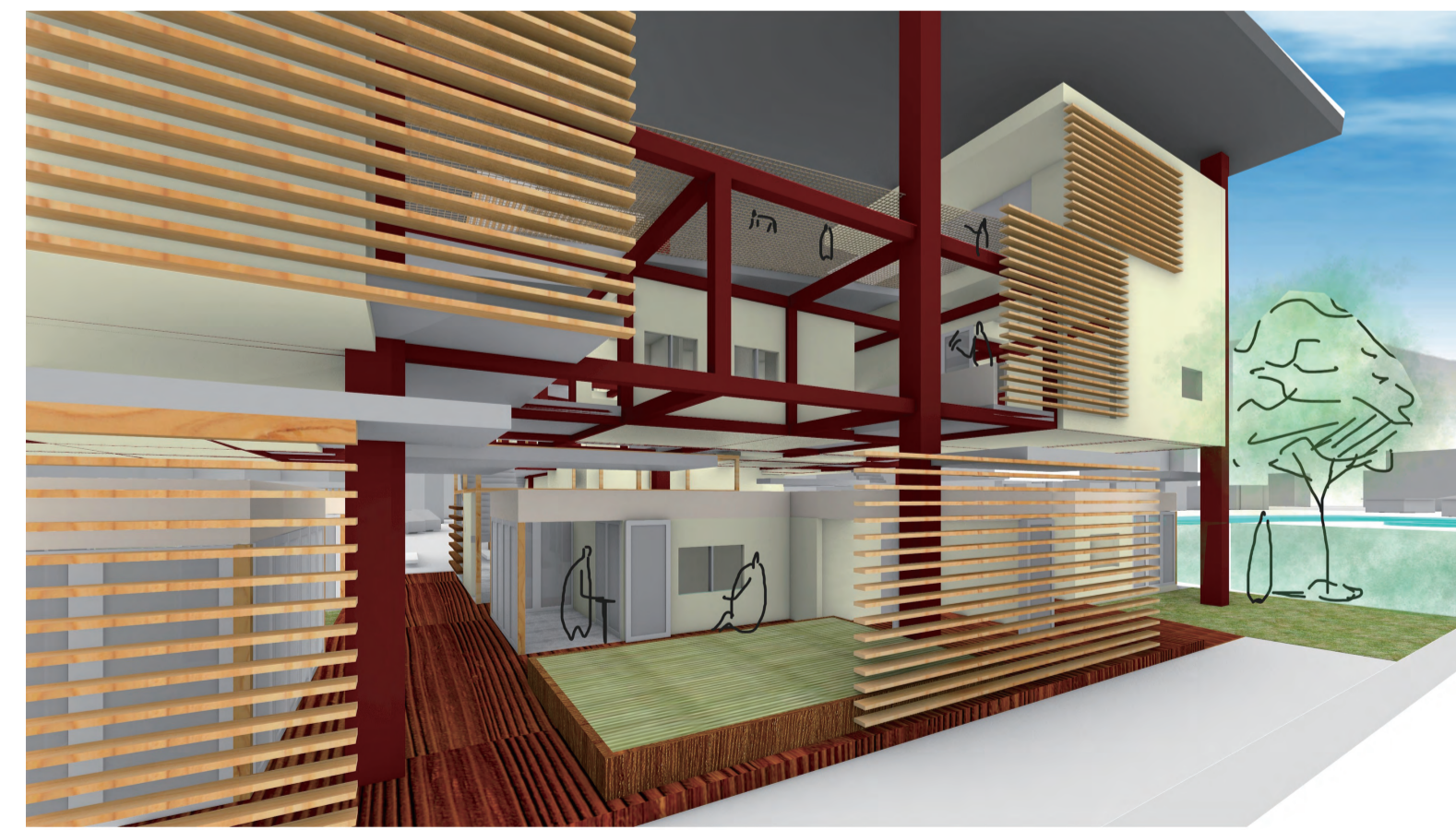
3階に保育室を設けることで、視線が抜け保育士が幼児を見守りやすくしている。

木製ルーバーによる西日を遮りつつ、半屋外教室にもなるひな壇エリア。大階段を観客席として幼児達の発表の場にもなる。



昼～夜：集合住宅

2階の集合住宅の居室には土間を設け、折り戸や可動壁によって、通路に対して開く事ができる。フレンドリーな構造の躯体を利用しつつ、居室の前の通路を大きめに取ることで、物が表出し、それぞれの生活が見えてくる。

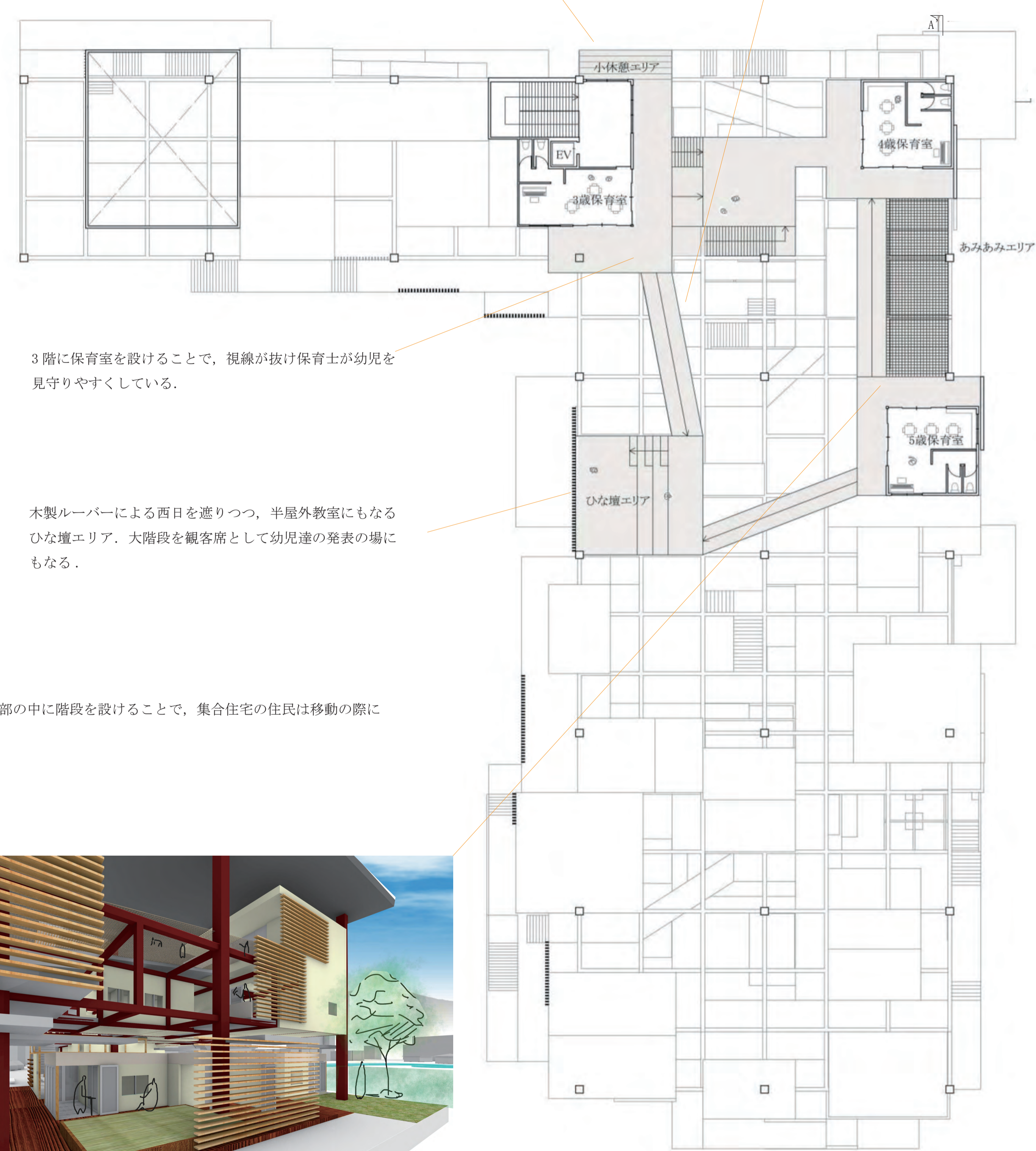


昼～夕方：あみあみエリア

午後になると、あみあみエリアで遊ぶ幼児の声や動く影が1階の畳エリアへと伝わる。1、2階にいる高齢者や住民が時間や幼児の様子を感じることができる。



2階平面図 S=1/200



3階平面図 S=1/200

0m 10m 20m 30m 40m 50m

0m 10m 20m 30m 40m 50m